

フランスCEAとの情報交換協定の締結について

< 参考資料 >
2015年9月23日
東京電力株式会社

■ 背景

福島第一原子力発電所の廃炉にあたっては、廃止措置作業の経験を持つ海外の事業者と相互に知見を共有することが有益だと考えており、これまでも米国DOE、英国セラフィールド社との協力を進めている。

このたび、原子力分野における広範な技術開発および再処理施設や原子炉廃止措置の経験を有するフランスCEA（原子力・代替エネルギー庁）と、廃止措置サイトの運営管理および技術的課題に関する経験や情報の交換を行うことで合意し、情報交換協定を締結した。

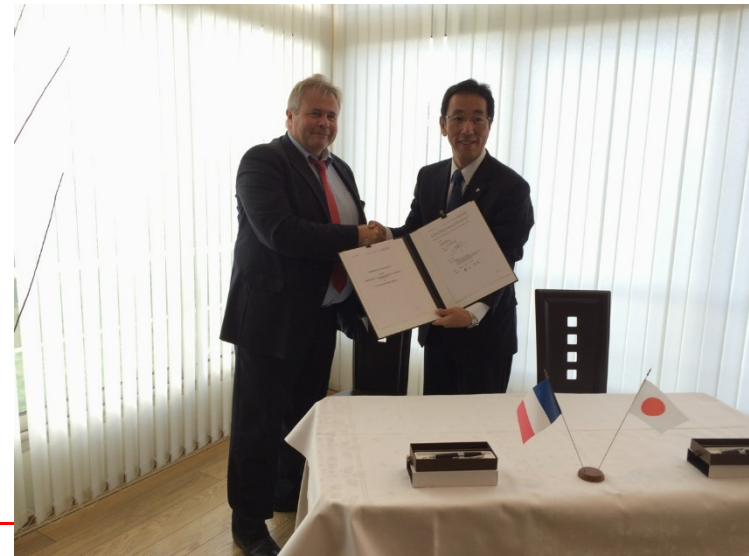
■ 協定締結の概要

- 日時：2015年9月23日（水）正午12:00（現地時間）
- 場所：CEAサクレ原子力開発局本部
- 先方：CEA原子力開発局長 クリストフ・ベアール氏
- 当方：福島第一廃炉推進カンパニーCDO 増田尚宏
- 内容：双方の関心事項に応じて、柔軟な情報交換を可能とするため、守秘義務等を定めた覚書を締結する。情報交換する項目は、廃止措置サイトの運営管理、技術的トピックス等。

フランスCEAとの情報交換協定の締結について

■ 協定締結時の様子

- ※左上写真：CEA本社ビル前
人物右：クリストフ・ベアール
CEA原子力開発局長
人物左：増田尚宏 福島第一
廃炉推進カンパニーCDO
- 右上写真：協定書
- 左下写真：調印の様子
- 右下写真：調印後の握手



フランスCEAとの情報交換協定の締結について

■ 協定締結に対する福島第一廃炉推進カンパニーCDO 増田尚宏のコメント

この度、原子力分野で研究開発および廃止措置に関する豊富な知見および経験を有するフランスCEAとの情報交換協定の締結は、国内外の英知を集結して安全で着実な廃止措置を進める上で意義のあることである。

フランスCEAからは、高線量下における廃止措置や廃棄物処理などにおける、技術開発から現場適用に至るまで、協力企業と一体となった運営管理についての長年にわたる貴重な経験を、しっかり学んでいきたいと考えている。また、当社がこの約4年半で進めてきた取り組みやそこから得られた教訓をフランスCEAと共有することを通じて、双方にとり有意義な協力関係としていきたい。

■ フランスCEA 原子力開発局長 クリストフ・ベアール氏のコメント

東京電力は今、福島第一原子力発電所を安定的にかつ安全に、廃止措置を行う、というとても難しい課題に取り組んでいる。CEAの原子力開発局では、原子炉やホットラボ、再処理施設のような古い施設の廃止措置を行うことや、様々な形、量や種類の放射性廃棄物を処理することなど多くの経験を有している。

東京電力とこれらの経験を共有することは価値あることと考えている。廃止措置に関する研究開発プログラムはとても複雑で長期的な努力を要するだけでなく、高いレベルの技術やノウハウ、資金的なコミットメントも要求される。CEAにおける全ての廃止措置事業を任されている原子力開発局は、この協定の締結により東京電力と長期的な関係を築けることを誇りに思うとともに、福島第一原子力発電所の様々な廃止措置の取り組みを通じて多くを学びながらその経験を共有していくことを期待している。

(参考) フランスCEAとの関係・保有技術について

■ 東京電力とフランスCEAとの関係（経緯）

- 2014.11.3-7：日仏原子力専門家会合（N-20）への増田CDO出席に併せて、マルクール原子力施設等を訪問
- 2015.6.1-2：CEAピケティ廃止措置本部長の福島第一訪問
- 2015.9.23：情報交換協定の署名

■ フランスCEAの主な施設

- マルクール原子力施設：原子力発電や使用済み燃料再処理、高速増殖研究炉の運転など多数の事業が行われた。現在はこれらの廃止措置を実施中。
- カダラッシュ原子力施設：CEAによる原子力研究センター。高速増殖炉の運転、解体を実施。溶融炉心コンクリート反応の実験施設などを有する。

■ CEAの保有する知見・技術について

- フランス国内のパートナーと密接に協調し、研究開発から現場への適用に至るまで長期に渡りかつ不確定要素の大きいプロジェクトを柔軟に推進している。
- 遠隔操作機器の開発や運用等を通じて、原子炉や再処理施設の廃止措置に取り組んでいる。



Dr.ピケティ廃止措置本部長



廃止措置遠隔作業監視室



遠隔操作機器



ジェル除染の様子



レーザー除染の様子